



外陰・膣萎縮レーザー治療 MonaLisa Touch® (モナリザタッチ)



ワークショップ(大阪)開催のご案内

更年期前後の女性における外陰・膣・尿路の不快症状(GSM)に対し、新たな治療の選択肢として注目されている外陰・膣萎縮レーザー療法。世界中で50万人を超える更年期世代女性がすでにこの治療の恩恵を受けており、日本でもその数が広がっています。この度、外陰・膣萎縮治療に加え、婦人科領域におけるレーザー療法の正しい理解と普及活動の一環として、ワークショップを開催いたします。新しい情報収集の場として是非お越しください。

日時：2017年12月9日(土) 17:30 ~ 20:00

場所：CIVI 研修センター新大阪東 (JR 新大阪駅東口すぐ)
大阪市東淀川区東中島1丁目19番4号新大阪 NLCビル



《 ワークショッププログラム 》



講演 1
聖マリアンナ医科大学卒業。産婦人科専門医。順天堂大学、千葉大学、松戸市立病院勤務を経て1998年、松戸市にて聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田を開院。地域に密着したクリニックとして思春期から更年期まで幅広い世代の女性の診療・カウンセリング、正しい知識の啓蒙活動に積極的に取り組んでいる。

産婦人科クリニックにおける膣・外陰レーザー治療「モナリザタッチ」の実際 ～ 390例を超える使用経験から得た知見とその将来性 ～

八田 真理子 先生 (聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田 院長)

モナリザタッチ療法は、膣内および外陰部を炭酸ガスフラクショナルレーザーで照射することで、線維芽細胞活性化、新生コラーゲン生成を促し皮膚・膣粘膜の再生を促す治療法である。当院では、2016年3月からモナリザタッチ療法を導入し、約1年半で232名390例を超える治療を経験した。実際の臨床知見から、即効性があり患者満足度も非常に高い結果を得られている。モナリザタッチ療法は、小規模クリニックでも容易に施術が可能であり、安全かつ効果的に「更年期以降の女性の不快症状の改善」を期待できる新しい治療法の一つになり得ると実感している。今回のセミナーでは、施術方法や臨床評価に加え、集患、カウンセリングなど運営面における当院での取り組みや経営的な面も含めた知見をお話します。



講演 2
京都大学卒業。産婦人科指導医、周産期専門医。京都大学大学院、日本パプテスト病院産婦人科部長、国立病院機構京都医療センター産科医長を経て、2015年京都市にて産科・婦人科江川クリニックを開業。専門は生殖内分泌で、数多くの婦人科腫瘍疾患の開腹手術、腹腔鏡手術、膣式手術の実績を持つ。

産婦人科領域における炭酸ガスレーザーの使用経験

江川 晴人 先生 (産科・婦人科江川クリニック 院長)

当クリニックは、2016年1月に京都市東山区に開業したばかりの無床のクリニックであるが、長年、地域周産期センターで勤務していた経験から、円錐切除後の早期前期破水の症例を数多く経験し、妊娠予定のある女性に対する円錐切除術はより慎重に行うべきであると考えてきた。子宮頸部高度異形成や子宮頸部上皮内がんに対する手術療法で、レーザーによる蒸散術が妊娠・出産のアウトカムに影響を与えないことに注目し、この治療法を積極的に勧めている。また、バルトリン腺嚢胞に悩んでいる女性が思いのほか多い。感染を繰り返す、強い痛みを経験したものばかりでなく、審美的な価値観から手術を強く希望される場合も少なくない。バルトリン腺嚢胞の手術は、侵襲の小ささから外来で比較的簡便に行われるのが一般的であるが、何度も再発を繰り返す症例を経験することもある。しかしながら、この手術の皮膚切開にレーザーを用いると術後の再発を少なくするという文献があり、当クリニックでは根治的治療を目指して炭酸ガスレーザーを用いている。

これまでの経験した症例から得られた知見を共有し、婦人科領域における炭酸ガスレーザーの可能性と問題点について考えたい。

デモンストレーション

講師2名の先生による実演：モナリザタッチと様々なレーザー照射方法をお見せします。

申込内容	<input type="checkbox"/> セミナーに参加希望	<input type="checkbox"/> 資料のみ希望
ご施設名	フリガナ	T E L
		E-mail
ご住所	〒	都道府県
参加者お名前		

FAX: 03-3403-6712



DKSH ジャパン株式会社
DEKA 事業部 青山営業所
〒107-0062 東京都港区南青山 2-21-37
tel:03-3403-6711 mail:info-deka@dksh.com